

青少年 はちのへ



かがみ

青少年健全育成シンボルマーク



【発行】 第90号

八戸市教育委員会教育指導課

八戸市内丸一丁目1-1

Tel 43-2111 (内 6113)

Fax 47-4997

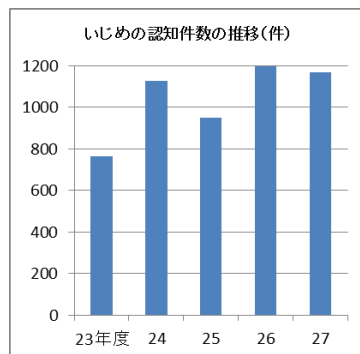
Eメールshido@city.hachinohe.aomori.jp

平成28年11月15日号

いじめの加害者・傍観者にしない！

近年、いじめが全国的に大きな社会問題となっています。いじめが起因となり、生徒が自らの命を絶ってしまうという大変悲しく痛ましい事件も発生しています。子どもの尊い命が失われたことは、重く受け止めなければなりません。

右のグラフは、県内の公立小中高等学校が認知したいじめの件数の推移を表したものです。平成27年度は1166件となっており、直近の5年間の中では昨年度に次いで2番目に多い状態です。学校では、「いじめ防止基本方針」を策定し、いじめの未然防止に取り組んでいるところですが、各家庭においても、「いじめ」の加害者や傍観者にはいけないと意を強くし、我が子の変化を見逃さない関係づくりが求められます。



かけがえのない命を奪う「いじめ」をなくすためには、親としていじめが絶対に許されない行為であることを子どもに教える責任があります。子どもは親の言動に影響を受けて育ちます。いじめをしたり、いじめを黙って見ていたりする人への憤り、思いやりのある人に育ててほしいという願い、他者を認め尊重することの大切さなどを、子どもにしっかりと伝えましょう。そして、傷つけられた人やその家族の気持ちについても考えさせ、いじめによる悲しみがどんなに深いものかを理解させましょう。



また、ペットはもちろんのこと、自然界で生きる動物の死にふれる場面があったときには、生命の尊さや大切さを実感させましょう。

いじめは、生活の中で強く感じたストレスを発散させる行為とも言われています。家庭内のもめ事、過度の期待などで、子どもの心に負担をかけないようにすることも大切です。

いじめは生命に重大な危険を生じさせるおそれがあるという危機感を、学校、家庭、地域社会が共有し、いじめの未然防止のために、大人がみんな、子どもの心を育て教えることが必要です。

〔家庭教育手帳(文部科学省)より一部引用〕

八戸市青少年健全育成「市民の集い」にお越しく下さい

「子ども・若者育成支援強調月間」の11月に、次代を担う青少年の健全育成を市民総ぐるみで推進するため、意識啓発と心がふれあう地域活動や育成活動の活性化を目的として、「市民の集い」を開催します。

お気軽にご来場ください。お待ちしております。〔無料です〕

【日時】平成28年11月20日(日)

13:30~15:30

【場所】八戸市総合福祉会館(多目的ホール)

(はちふくプラザねじょう)

〈根城八丁目8-155〉

【主催】八戸市青少年健全育成

「愛の一声」市民会議

【問合せ】八戸市教育委員会

0178-43-2111(内6113)坂本

【内容】

○講演「ふるさとの言葉・南部弁を見直しましょう」

講師：八戸市公民館館長 柘谷 伸夫氏

○児童生徒郷土芸能発表

青潮小「こどもえんぶり」・白銀小「沖揚音頭・沖揚勇太鼓」

○児童生徒弁論発表…お話弁論・防犯弁論の最優秀者の発表

・小泉美智子(日計ヶ丘小6年)「想いをつなぐ」

・上野 伊織(三条中2年)「知る喜びを未来へと」

・首藤 稀蘭(長者中3年)「地域の目が防犯に」



夢を育むグッジョブウィーク

今年で17年目となる「さわやか 八戸 グッジョブウィーク」は、中学2年生を対象に市内の全公立中学校で実施され、今年度はおよそ2160名が参加しています。数日間の職場体験や福祉・ボランティア体験を通して、自分の興味・適性を考え、将来の進路について真剣に考えようとする生徒の姿が見られています。また「地域の子どもは地域で育てる」という視点で展開されるこの事業は、学校・家庭・地域社会の三者がそれぞれの役割を明確にし、準備段階からの連携が不可欠となります。事業の実施にあたっては、毎年、地域の方々の温かい御理解と御協力をいただき、深く感謝いたします。

ここでは、小学校でグッジョブウィークを体験した中学生の感想文を紹介します。

『グッジョブでの経験を成長に』

八戸市立湊中学校2年 林崎 志菜

夏休みの最終日、私は部活中にけがをしてしまいました。ギブスをした足でグッジョブに参加するのは、相手の事業所に迷惑をかけてしまうということで、事前をお願いをしていた事業所での活動を辞退することになりました。2学期のスタート、最悪だ……と落ち込んでいたところに、母校である小学校が受け入れてくださるという話を先生から聞き、けがをしていることを絶対に言い訳にしないで、自分から仕事を見つけてどんどん動こうと、心に決めました。

グッジョブ初日、全校朝会で児童にあいさつをしました。ほんの短い時間でしたが、とても緊張しました。私は、4年生のクラスを担当することになりました。プリントの丸付けをしました。自分の宿題とは違って、量も多く、間違えてはいけないという責任も感じました。次に、子どもたちが書いた日記に返事を書く仕事をさせてもらいました。一人一人にコメントを書くのはとても難しく感じられました。でも、週末の出来事を読んでいるとこちらも楽しい気持ちになれたし、日記の文章の中から、子どもたちの性格や人柄が見えるようでした。また普段、先生方が当たり前に行っていることが、こんなに大変なことだと知ることができました。

最終日には、算数の割り算の筆算を教えました。わかってもらえたか不安だったけれど、「わかりやすかった。」と、子どもたちが言ってくれたときは、すごく嬉しくて、達成感がありました。最後にお別れ会を開いてもらい、伝言ゲームをしたり、メッセージが書かれた色紙をもらったりして、『先生』という仕事の魅力と喜びを感じることができました。

今回の経験を通して、3つのことを学ぶことができました。1つ目は、仕事は大変なものだけれど、その中に楽しさややりがいを見つけることができるということです。2つ目は、相手の問いかけに反応することの大切さです。先生の立場になってみて、相手がわかっているのか、どう思っているかわからないと心配な気持ちになることを知りました。3つ目は、自分がたくさんの人に支えられていることに気づくことができたことです。この貴重な経験ができたのも、けがをしている自分を受け入れてくださったり、グッジョブに行けるように動いてくださったりしてくれた方々の存在があったからです。

さらに、自分に足りないことも知ることができました。それは、あいさつや返事は自己満足ではなく、相手にしっかりと伝わるようにするべきだということです。したほうがいいと思っても、実際に動かなければ何もしていないのと同じなのです。

グッジョブウィークで得たものを、自分自身の成長や将来の夢探しに、つなげていきたいと思っています。

各校とも参加した生徒は、それぞれに発見や感動があったと思います。

どうぞ御家庭でもお子さんの体験談をお聞きください。



〔写真は、湊中学校と田代中学校の今年度の活動のようすです〕